



ジュニア大使友情使節団

～米国シアトル班の活動の記録～

「ジュニア大使友情使節団」、第29回夏期シアトル班は、平成25年8月8日集合、1泊2日の事前研修の後、米国シアトルへ出発、8月19日帰国。ここに団員の活動記録の抜粋を紹介する。

結団式、事前研修

＜外務省の齋木尚子国際文化交流審議官を表敬訪問＞

結団式では自分でしっかりと決意の言葉を述べられました。外務省表敬訪問では、普段はなかなか聞けないことをたくさんお聞きできてとても良かったです。

ホストファミリー

＜8泊9日のホームステイ＞

ジャスティンという男の子がすごくおもしろかったです。ずっと家にいてアメリカのテレビを見て、トランプなどもしてとても楽しく遊ぶことができました。ホストマザーやファーザーも

とてもやさしく接してくれました。

＜日曜日＞

Fred Meyer という大きなスーパーマーケットに連れていってもらいました。そこには食品以外にも洋服や家具、本など様々なものが売られています。日本と比べながら見ました。日本と違うところの1つ目は、1つの種類のものが多いこと。取るのが大変そうでした。2つ目はケーキが売られていたこと。カットではなくホールでびっくりしました。

ジュニア大使特設の英語研修

＜7日間の英語研修、初日＞

英語の勉強は最初は嫌だったけれど、担当の先生が分かりやすく、とても楽しい授業をしてくれたので毎日勉強が楽しみになりました。

＜フィールドトリップ＞

ウィングルークアジアアート美術館に行きました。まず最初に昔の日本の看板を見ました。「りすく」と書いてある菓子の店の看板などとても面白い看板がたくさんありました。次に中国からの輸入品の食べ物売っていたお店に行きました。約100年前の乾燥食品が保存されていて独特の臭いでした。

訪問・交流

＜日系老人ホーム＞

日本語を話せる人がたくさんいてうれしかったです。文化紹介で、計算機とそろばんの勝負には負けましたが、

計算はあってよかったです。また、ここでいろいろな老人と話したいです。

＜日本国総領事館を表敬訪問＞

シアトルと日本のとても深いかわりを知ることができました。たくさんの方の支援をしてくれたシアトルの人に感謝していきたいと思いました。



ワシントン州政府を訪問して研修を終えて

いのまた ゆうか
猪俣 友花

新潟県・刈羽村立刈羽中学校3年

ホームステイは本当によい経験になりました。はじめは私の英語が伝わらなくて相手が困ったらどうしようという不安もありました。でも実際に話してみると、私がいかに話しているのかわからなかった。YesかNoで答えられるようにしてくれました。伝えようとする気持ちをいつでももっていてくれました。私もその気持ちに応えるために、思ったことははっきりと伝えることを心がけました。ときには文にできず単語を並べてということもありました。完璧にできなくても「伝える」という行動に移すことの大切さを学ぶことができました。

世界万華鏡

スウェーデン、トンバ高校の生徒を受け入れて

ホストファミリー 波多 圭以子

本紙6月号でご紹介した、スウェーデン、トンバ高校の第5回訪日研修。1週間のホームステイ受け入れについてホストファミリーの感想を紹介する。

●ホームステイを受けて

大変良かった。今回は、宗教的なことなど不安なことがありましたが、アリ君のやさしさと礼儀正しさに感心し、心配はなくなりました。
※編集補足：「アリ君」はイスラム教徒。移民の多いスウェーデンからの訪日研修一行には様々な文化背景の生徒が参加している。

●ホームステイにあたり心配したこと

食べられない豚肉、魚は使わないよう配慮しましたが、それ以外は日本の食材も抵抗なく食べてくれてとても嬉しかったです。お弁当も残さず食べてくれたのが、とても有り難かったです。言葉も、日本語を積極的に話してくれましたし、英語での会話も何んとか通じたので、問題ありませんでした。お互いに何でも試してみるという気持ちがあったのがよかったのかなと思います。

●ホームステイを受けた感想

今回で2度目の受け入れでした。以前の反省をふまえて、家族の紹介写真

や日常生活の説明資料を作ったりと、ほんの少しの準備を工夫しました。でも女の子ばかりの我が家にうまくなじんでくれるかどうか心配でした。最初の印象はとてもシャイな感じで、口数も少ないのかなと思っていましたが、アニメやゲームを通して、どんどん子どもたちとも仲良いうちとけてくるのがわかり、安心しました。家の中でも段々とくつろいで、リラックスしている様子が見えて嬉しかったです。

日本のアニメ（とりわけ歴史物）に興味があったおかげで、日本の生活、食事、風土についても本当によく知っていてビックリしました。こんなに日本のアニメがきちんと文化を伝えてくれるものとは知りませんでした。彼のおかげで私たちも初めての体験をすることができました。秋葉原の街も歩き、英語版のコミックスの存在も知り、横浜のマリンタワーなど観光地も短時間に見て歩きました。

とてもタイミングが良かったのが鎌倉で行われた「鎌倉まつり」のパレードを見ることができたことです。彼の興味をそそる武士、おみこし、踊りなどを見てもらえて本当によかったです。このように家族と過ごす時間（休日）が日程に含まれたことが、今回のステ

イをより深く楽しいものにしてくれたと感じます。

そして、今回私たち家族が強く感じたのは「個人を知ることの大切さ」です。宗教（イスラム教）は私たちにとり未知のものであり、耳に入ってくる情報は怖いことが多く、よく知らないまま不安に思っていた部分がありました。しかし、アリと生活してみれば、そんな心配はなくなり、彼のやさしさ、思慮深さ、ユーモア、そういうものが伝わってきました。彼の話の中からイスラムの底に流れる精神と日本の文化の底に流れるものには似たものがあるのかもしれないと思いました。

知らずに恐れるのではなく、もう少し知る努力をしてみようかと思うようになりました。他国の個人を知ること、誤解や不安を解くことにつながる。これが、本当の意味で国際交流なのだと実感しました。

平成25年8月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ502
発行責任者：及川 伊佐子
編集：事務局 03(3582)3021
印刷：音和堂印刷株式会社